

ご使用の注意点

本製品を使用する前に、各車両のサービスマニュアルに従ってバッテリー、オルタネーターをCCA テスター（当社品番 JTC4608、PBT200）を使用して単体点検を行ってください。

本製品は上記が正常である場合のみご使用ください。上記に異常がある場合は正確に測定できない場合があります。暗電流とは、イグニッションスイッチが OFF の状態でも流れる待機電流の事です。暗電流が何らかの原因で流れてしまうとバッテリー上がりの原因となります。

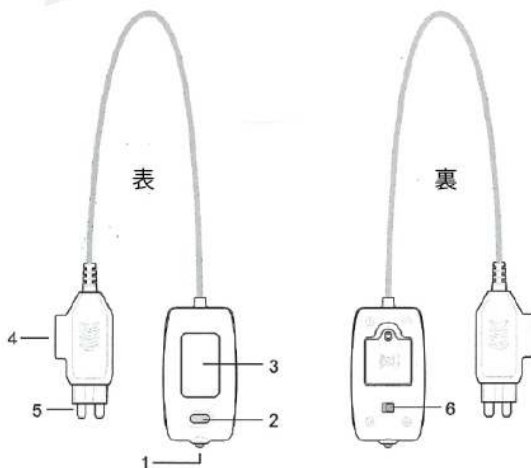
間違った使用法は本製品の破損や車両の不具合、データの消去の原因となります。場合によっては車両診断機での初期設定やリセット作業が必要な場合がありますので、作業開始前に必ず取扱説明書・使用時の注意点等、熟読頂き御理解頂いた上で作業をしてください。

※本製品を使用して生じた場合の本機の故障、又は車両側の機器に対する損傷及び故障、データの消失等に関してましては一切保障いたしません。十分御理解頂き御使用ください。

※OBD II コードをご使用した際、車両マイナス端子脱着後、バックアップに失敗した場合は車両のサービスマニュアル等を参考にしてスキャンツールでのリセット作業が必要な場合があります。



テスター本体仕様



■最大負荷：DC32V/20A

■測定範囲：0.01A ~ 19.99A

■各部名称

- | | |
|--------------|------------|
| 1. LEDライト | 4. ヒューズ差込部 |
| 2. LED点灯スイッチ | 5. プラグ |
| 3. 液晶 | 6. 電源スイッチ |

! 車両バッテリーの電圧が **12V 以上**ある場合は以下の方法で作業してください。

(図 1)



(図 2)



(図 3)



(図 4)



1. キーシリンダーからキーを抜いてください。

※スマートキー等は車輛に反応しない離れた位置に置いて 10 分以上放置してください。作業中は車両の電装類を作動させないようにしてください。

2. テスター本体とバッテリーマイナス端子用コードを (図 1) のように確実に接続してください。

3. 車両バッテリーのマイナス側ポールに②バッテリーマイナス端子用コードのクリップ部とワニ口部を (図 2) のように確実に取り付けてください。

※注意：ワニ口またはクリップが外れてしまうと車両側の機器、データの消失等の原因になります。

4. (図 3) のように車両バッテリーより端子を分離してください。

5. 測定された電流が表示されます。(基準値：0.02A ~ 0.08A)

※0.08A 以上ある場合は漏電の可能性があります。

6. 分離した車両のマイナス端子を取り付けてください。(図 2)

7. 漏電している場合は、車両のヒューズ BOX を確認してください。

8. 車両のヒューズ BOX にテスターのプラグを順番に挿入して漏電を調べて下さい。(図 4)

※必要に応じて回路を付勢するために、車両のイグニッションをオンにします。

9. 漏電している電装品、リレー等を外したらテスターの数値が下がるので、その箇所を修理してください。



車両バッテリーが **12V 以下** の場合は以下の方法で作業してください。

(図 5)



1. キーシリンダーからキーを抜いてください。

※スマートキー等は車輻に反応しない離れた位置に置いて 10 分以上放置してください。作業中は車両の電装類を作動させないようにしてください。

(図 6)



2. 12V 以上あるバッテリーを持って車内に乗り込み窓を開けドアを閉めてルームランプやシステムがスリープ状態になった事を確認して作業を行って下さい。

3. 車両の OBD II コネクター (オス) に OBD II 用ワニ口コードの OBD II 差込部 (メス) を接続してください。(図 6)
(図 7) のように緑色 LED ランプが点灯するのを確認してください。

※注意：緑色 LED ランプが点灯しない車両には使用できませんので、バッテリーを交換して P2 の方法で調べてください。

(図 7)



4. ワニ口の赤色をバッテリーのプラス端子に接続して、ワニ口の黒色をマイナス端子に接続してください。テスター本体と OBD II コードを接続してください。(図 8)

6. 車両バッテリーのマイナス端子を外してください。

7. 測定された電流が表示されます。(基準値：0.02A ~ 0.08A)

※0.08A 以上ある場合は漏電の可能性がります。

(図 8)



8. テスターを確認しながら車両ヒューズ BOX からヒューズを抜いてテスターの数値が下がる箇所を特定します。
漏電している配線、電装品等を点検してください。

※注意：作業中にドアを開けた場合には車両のシステムが起動し OBD II 側から多量に電気を流そうとする為、絶対に行わないでください。車両のドアを開けた状態で作業する時は、カーテシスイッチを押さえた状態にしてください。
または 2 名以上で作業してください。

OBD II用ワニ口コード

使用不可車両につきまして



通常キーシリンダーからキーを抜いて（図 10）のように車両のOBD II コネクター（オス）とOBD IIワニ口コード（メス）の本体を接続するとコネクターの通電チェックのLEDランプが点灯します。（図 11）点灯する車両は常時電源が供給されている為、バックアップが可能です。平成13年頃の初期のOBD II端子の付いているダイハツ車や一部のホンダ車ではキーをOFFでは点灯しない車両があります。これらの車両はキーシリンダーの位置がACCやONの位置にしないと車両のOBD II端子へ電源供給されません。ACCやONの位置では車両の電装品が作動する為、OBD II用ワニ口コードは使用出来ません。（P2の方法で調べてください。）



※万一、ACCやONの位置で使用した場合や作業の途中でドアを開けた場合には車両のシステムが起動しバックアップ電源側から多量に電気を流そうとする為、本機に過度の負荷が掛かり内部配線及びヒューズ破損の原因となります。

車両側もヒューズの破損や配線焼け、車両の不具合、車両側の機器の損傷及び、データーの消去等を起こす場合がありますので絶対にキー操作や作業途中でのドアの開閉等は行わないで下さい。



当商品につきましては、車両への損害防止と安全性を考慮しキーを抜きすべての車両システムがスリープ状態になってから使用する設計です。

※ 輸入車や商用車におきましてはOBDからOBD IIへの移行時期の設計の車両の場合、旧コネクターとOBD II端子の両方が付いている場合があります。

この様な車両の場合、OBD IIの端子がダミーの場合がありますので、最初に本機を接続し通電チェックのLEDランプが1個点灯するか確認後、作業を行って下さい。

輸入発売元 **JTC Auto Tools** 株式会社
E" M : info@jtcautoools.co.jp
FAX : 0834-36-0010